

令和6年能登半島地震における消防団活動を踏まえた対応策等

総務省消防庁

令和6年能登半島地震における消防団活動を踏まえた対応策等

被災地での活動

消防団は、自らも被災しながら、地域住民の命を守るため、発災直後から避難の呼びかけや消防隊と連携した消火のほか、倒壊家屋からの救助、孤立集落からの住民搬送、行方不明者の捜索、避難所運営の支援など、懸命な活動を展開した。



【輪島市消防団による消火活動】



【輪島市消防団による亀裂の入った道路補修の様子】

課題と考えられる対応策等

- 地震や津波による消防団拠点施設（詰所）が倒壊・損壊
- 道路損壊や土砂崩落等により通常の消防車両の通行が困難
- 要救助者を迅速に救出できる体制の構築
- 迅速な災害情報等の把握による初動対応能力の向上
- 津波警報の発令時における消防団の安全管理の徹底



- 消防団拠点施設の強化（耐震補強等による災害時の出動体制確保）
- 狭小・狭隘な道路でも通行が可能な機動性が高い小型車両等の整備を更に推進
- 女性や経験が浅い団員も容易に取り扱うことができる小型軽量化された救助用資機材等の整備を更に推進
- ドローンやアプリなどのデジタル技術の活用
- 津波警報時における安全管理マニュアルの周知徹底等

【車両・資機材等の例】



【デジタル技術の活用例】